

# 開会行事

## オープニング・アトラクション

### ほっとらいん

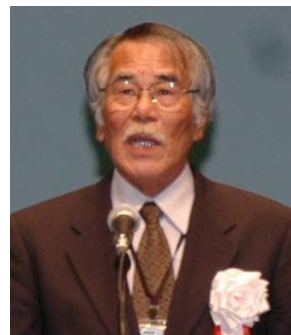
歌のボランティアグループ「ほっとらいん」によるびわ湖の葦を使って作られた素朴で、やさしい音色のよし笛とやわらかなギターとの伴奏で、心に残る「ほっ」とする演奏で開会



## 開会の言葉

「早寝・早起き・朝ごはん」全国フォーラムinしが  
実行委員会委員長 佐藤尚武

実行委員長を務めております滋賀大学の佐藤でございます。このように多くの方々にお集まりいただきまして、まずはご参会の皆さま方に厚く御礼を申し上げます。



【佐藤実行委員長】

今回のフォーラムは、「早寝・早起き・朝ごはん」という標語のもとで運営されておまして、文部科学省の委託を受け、滋賀県教育委員会の生涯学習課のもとで準備を進めてまいりました。その過程では、実に多くの方々のご協力とご支援をいただいております。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

本日は、10時より2つの分科会をはじめとして、33のブースにおいて展示と体験コーナーが運営されてまいりました。子どもたちの活動の場も用意し、大変多くの参加者で賑わいました。ありがとうございました。

ここからは全体会として、基調講演、シンポジウムへと進めてまいります。「早寝・早起き・朝ごはん」という基本的な生活習慣を考えなければならない背景には、今日の社会が24時間型に変貌しつつある中で、食をはじめとする生活の豊かさと無関係ではありません。「いつでも、どこでも、誰もが」という、こういった生活の広がり、私たちの身体に警鐘を鳴らしているような気がしてなりません。

それでは、ただ今より『早寝・早起き・朝ごはん』全国フォーラムinしがの全体会を始めまいります。

## 開会の挨拶

文部科学省生涯学習政策局

生涯学習総括官 清木孝悦



### 【清木総括官】

まず、お集まりの皆さま方には、常日頃から、子どもたちの健やかな成長を願い、愛情と熱意を持って積極的に活動を展開しておられますことに、心から敬意を表する次第でございます。

先ほど少し時間がございましたので、ピアザの会場も見てまいりましたけれども、大変たくさんの方々、それも各世代にわたってお集まりをいただき活発に開催されていること、大変ありがたく思う次第でございます。

今日、早寝・早起き、あるいは朝ごはんを毎日食べるというふうな子どもたちの健やかな成長に欠かせない基本的な生活習慣が大きく乱れていて、子どもの学習意欲や体力あるいは気力にも悪影響を及ぼしているということが指摘されておまして、子どもの生活リズムの向上は社会全体の大きな課題であるというふうに考えております。

こういう考えから、文部科学省としましては、子どもの望ましい基本的な生活習慣を育成するために、平成18年度から「早寝早起き朝ごはん」国民運動を推進しておりまして、今年度も、ここ滋賀県をはじめ全国8カ所でフォーラムが開催されているところでございます。

さて、先日、40数年ぶりの全国学力調査の結果の発表がございました。その調査の中で「毎日朝ごはんを食べるかどうか」というふうな事柄も含まれておまして、まず1つは、6年前の平成13年と比べまして、朝ごはんを毎日食べる子どもの数が大変増えている。小学校でも中学校でも10ポイントほど上がっているということが明らかになりました。

これがこの運動の成果かどうか、そこまではわかりませんが、そういう状況もわかっております。

それと、毎日朝ごはんを食べる子どもの方が、この学力調査の成績がよかったという結果も出ております。これは前から言われていたことが、この調査結果でも判明したというわけですが、毎日朝ごはんを食べれば直ちに成績が上がるというわけではないと思いますけれども、そういう規則正しい生活を送れば、成績の向上にもつながるし、それに留まらず、いろいろな面でプラスだということではないかというふうに考えているところでございます。

考えてみると、これはあたり前のことではないかと思うわけですが、人間も動物の一種でございます。夜行性ではなくて昼行性の動物ですので、やはり、太陽の動きに合わせて生活を送るというのが一番体調がいいというのは、いわばあたり前ではないかと思っております。そういう意味では、近年は動物としての人間の生き方に少し歪みが生じていたのではないのかなというふうにも思うわけでございます。

さて、この「早寝早起き朝ごはん」国民運動、大変ありがたいことに、多くの地域で、多くの団体・企業などのご協力も得まして、大きな広がりを見せているところでございますが、一方、昨年12月には、約60年ぶりに教育基本法の改正が行われました。その中では、家庭教育の役割ですとか、あるいは学校・家庭・地域の連携・協力についても条文が設けられております。

そもそも、教育の原点は家庭にありまして、すべての教育の出発点ということも言えるわけでございますし、また、子どもは言わば社会の宝物でございますので、その社会の宝物である子どもを地域社会全体で育てていくということも、大変大事なことでありと考えております。

そういう観点も含めまして、この「早寝早起き朝ごはん」国民運動を通じて、子どもの正しい生活リズムが身につくように、あるいは豊かな情操を育むというような面で、さらにそれがまた大人の生活リズムにもつながるということになっていけば、大変意義深いのではないかと考えているところでございます。

最後になりましたけれども、本日お集まりの皆さま方に、改めて、この運動に積極的にご参画いただいておりますことに敬意を表しますとともに、この運動がさらに進展することを願い、また期待申し上げます。私のごあいさつとさせていただきます。

## 歓迎の挨拶

滋賀県教育委員会

教 育 長

齋 藤 俊 信



【齋藤教育長】

皆さん、こんにちは。  
『早寝・早起き・朝ごはん』全国フォーラム in しが」この大会に、母なる湖びわ湖の地、この滋賀県へようこそお越しいただきました。心から歓迎を申し上げます。

ます。

この大会を通じまして、県内各地の皆さま方、また近畿他府県からも多数の方々がお越しいただきました。本日、すばらしい秋晴れの天気にも恵まれてこのように盛大に開催できましたことを、心からうれしく思っております。

今日、子どもをとりまく環境が大きく変化しております。少子高齢化、核家族の急速な進展、地域の教育力の低下、また家庭の教育力の低下、また、子どもたちの非行の問題、いじめや不登校の問題等々、さまざまな問題が、教育の面からだけでなく社会問題としても大きな問題として指摘されているところでございます。

こうした中であって、滋賀県におきましては平成18年度から「子どもたちの健やかな育ちをみんなで支えていこう」という思いから、「早寝早起き朝ごはん」国民運動と連携し、県民運動として推進していこうということで、取組を始めました。

昨年度は、県内の子どもたちに、かわいらしいイラスト入りの啓発のステッカーを、15万枚配付させていただきました。また、県内8カ所にわたりまして、リレーフォーラムと称しまして、「早寝・早起

き・朝ごはん」のフォーラムを開催したところでございます。5,000名を超える県民の方々の参加をいただきました。

また、ポスターの募集もやりました。本年度も昨年度に続きまして、小学生・中学生に呼びかけまして、「早寝・早起き・朝ごはん」に関するポスターを募集いたしました。1,366点の応募がございました。ピアザ淡海でのポスター100選の展示、それから表彰させていただく作品も、このホワイエのところで展示をしております。そうしたことを通じ、県民の皆さまの関心の高さと、また、子どもたちの関心の高さということも感じている次第でございます。

また、子どもたちの健やかな育ちを支えるためには、保護者の皆さま方が働いておられる職場・企業の協力が不可欠であります。本県におきまして、昨年度から、「滋賀県家庭教育協力企業協定制度」というのを設けまして、県内の企業・事業所のトップの方々との教育委員会と協定を結び、子どもたちの育ちのための家庭教育に後押しをしていただけるような取組をやっていたいております。既に634社が締結しております。

こうした取組を通じましても、「早寝・早起き・朝ごはん」の取組を支援していただいているところでございます。また、県内各地域で、また各団体におきましても、「早寝・早起き・朝ごはん」の運動をみんなの力で、今、推進していただいているところでございます。

今回、ここ、びわ湖から発信します「早寝・早起き・朝ごはん」の力強いメッセージ、これが県内各地へ、そしてさらには全国のみんなに届きますように、日本の将来を担う子どもたちを健やかに育てていきますことを願い、有意義なフォーラムとなりますことを祈念いたしまして、私の歓迎のごあいさつとさせていただきます。



「早寝・早起き・朝ごはん」  
小・中学生ポスターコンクール  
表彰式

「早寝・早起き・朝ごはん」県民運動  
小・中学生ポスターコンクール入賞作品

滋賀県教育長賞

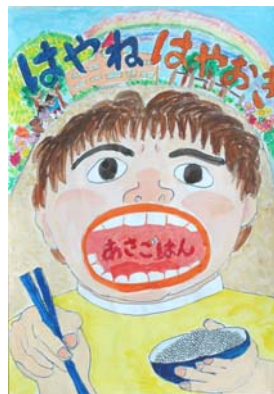


堀部 美鈴 さん  
(大津市立大石小学校)



梅本 亮 さん  
(彦根市立稲枝中学校)

滋賀県PTA連絡協議会長賞



岩崎 留奈 さん  
(彦根市立南中学校)



笠原 弥月 さん  
(大津市立仰木の里小学校)

滋賀県家庭教育支援協議会長賞



北村 和太 さん  
(米原市立坂田小学校)



北村 明子 さん  
(長浜市立南中学校)